

鹿島市総合教育戦略会議（第4回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成27年9月1日（火）9時59分から12時00分まで

2 開催場所 東部中学校 多目的室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、光武教育委員会委員、木原教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、橋村総務部長、打上市民部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、土井企画財政課長、事務局（総務課職員 江頭、原田）
- ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、澤野生涯学習課長、藤家教育総務課課長補佐、古川指導主事、小川指導主事、江島生涯学習課主査
- ・外部関係 なし
- ・傍聴 一般 1名

4 協議又は調整した事項（確認事項含む。）

- (1) 第3回鹿島市総合教育戦略会議（8/6開催分）の議事録素案について
 - ・議事録素案の内容を確認。
- (2) ICT教育について
 - 5 出席者の発言のとおり
- (3) ふるさと教育について
 - 5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 おはようございます。今回は少し変わって現地でということですから、それなりにまた変わった雰囲気でも会議ができるんじゃないかと思っております。この東部中学校、ほかの公立学校にはない設備が一つございまして、女子トイレの

中におむつ替えの設備が整っておりますから、そのことも色んなことで話題になったりすると思います。段々色んな意味で色んなニーズに応えるというふうになってきていますから、この教育という現場にも色んな要求が出てくるんじゃないかなと思っております。今日もよろしくお願ひいたします。

3 確認事項

(1) 第3回鹿島市総合教育戦略会議（8/6開催分）の議事録素案について

橋村総務部長 確認事項ということで既に事務局の方からお渡ししていたかと思ひますけど、議事録の素案ということで御確認いただいたでしょうか？（「はい」という発言あり）よろしいでしょうか。これで公表したいと思ひますので、よろしくお願ひします。そしたら協議事項ということで、協議事項につきましては要綱の規定に基づき市長に進行をお願ひしたいと思ひます。

4 協議事項

(1) ICT教育について

（大代総務課長説明 ICT教育の学習指導要領、鹿島市学校教育基本方針等における位置付け等、市内小中学校のICT機器の整備状況の説明。）

（古川指導主事説明 ICT（電子黒板）の利活用に関し、期待される効果（分かりやすい授業、学力向上など）、過去のその調査結果及び生徒の意見、電子黒板の機能（書き込む、拡大、映す、見せる等）を用いた授業での活用方法（先生の活用、生徒の活用）などを電子黒板でデモンストレーションをしながら説明。）

- ・聞いた限りでは大事なことで、効果はあるだろうと思ふ。関心があるのはそれで学力はどういうふうになるのか、人格形成について何か効果が期待されるかという2つ。
- ・学力向上を考えたときには上がるということは考えられると思ふ。
- ・入れるのと入れないとの差を言葉ではなく、数値等で具体的に皆さんに見せてやればそうだったとなる。上がっていると思ひます、上がるはずですよというのでは・・・そこをどうやって見せるか。
- ・入れたのに下位の生徒がついていけなくなってしまうとか、先生がダメなのでちゃんとできなかったとならないようにしてもらいたい。
- ・上位が伸びるのは割とあるが、ICTを活用するとそれだけ下位群が伸びるといい。

（古川指導主事説明 電子黒板でデジタル教科書をデモンストレーション。一部に動作不良あり）

- ・ソフトと先生の方にも問題があるのでは。
- ・それと操作テクニック。
- ・こうなると時間をとって子ども達が分からない。
- ・それは性能のせいなのか？
- ・早く進めたかったので本体から立ち上げず、その機能が上手く使えなかったのが原因。これでできるかなと思ってやってしまったのが失敗の元。
- ・生徒も使いこなせるレベルにある程度なってもらわないといけないし、先生はこれを自分の手のように使い切るためには、色々勉強しないといけない。
- ・先生のレベルが生徒に反映するというようになってしまう。良い先生にあたった生徒の学力は向上するけど、そうでないと生徒の学力はなかなか上がらない。
- ・この練習自体は先生の自分のパソコンでもできるのか？
- ・自分のパソコンでできるようにはなると思う。
- ・子ども達はテレビゲームのような感覚で馴染んでいくから、慣れるのは早い。先生達がそれを如何に自由に使いこなすというレベルに達してもらうよう色々研修をしてもらわないといけない。
- ・研修については導入してくれる会社にもお願いする。
- ・デジタル教科書は別に買わないといけないのであれば、そのソフトをどのくらい揃えることができるかということが課題になってくる。デジタル教科書を一冊買ったなら、二人三人の先生が別々に、同時に練習はできるのか？
- ・デジタル教科書は3年生の理科で5、6万。フリーライセンスということでその学校に入れたものはその学校内でフリーで使える。
- ・電子黒板を教室の前の黒板の横に設置をしている。後ろの視力が弱い子にとっては黒板を見てというのと、電子黒板を見てというのとではどうだろうか。
- ・あのサイズであれ見たら目の悪い子は見にくい。だから拡大機能を使って見せるという方法になる。
- ・タブレットの導入が明倫小学校、西部中、東部中各校41台とあるけれども、その使い方はどうされているのか？自分もタブレットをよく使うが、何か調べる時、タブレットは自分だけで利用できるもので、追及して調べる。子ども達も勉強で分からなかったら追求して調べて納得して、学力向上ということにつながっていくのではないかなと思う。
- ・パソコン教室にあるデスクトップ型パソコンのリース切れに合わせてタブレットに替えるもの。9月からとなる。
- ・追及して調べるというような使い方になると子ども一人一人持っていないといけない。

- ・ 区長との懇談の内容紹介（人間的な成長、この地に生まれてよかった、仲間がいっぱいいるとか、そういう面で教育の役割を、学校だけじゃなくて家庭も地域も皆で教育をしないといけないというふうに教育問題をとらえられている。集約された 6 点、1 点目、学力テストは重大関心事ではなく、人間として社会人として成長していくというようなことに興味がある。2 点目、生徒と一緒に頑張っている人ほど出世されない。校長教頭になろうと思って一生懸命される人と子ども達の教育との間に少し距離が出てきているのでは。3 点目、ふるさと教育にもうちょっと力を入れて、自慢できるようなふるさとになるように子ども達に教えてくれないか、子どもも先生もふるさとに対する基礎知識が不足している。4 点目、先生は昔はもっと生徒の中に入って、生徒も怒られても不登校なんかしていなかった。今そういうことがあれば、学校に出てこない、下手をすれば親が飛び込んでくる。まず先生に子ども達の育て方をちゃんと教えたほうがいいのでは。5 点目がルールを守るということを身に付けさせてくれないか、学力も良いけれどもルールというものが社会の中にあるはず。6 点目、先生方忙しいとよく聞くけど、どういうふうに忙しいのかよく分からない。忙しいのが分かれば、地域や家庭が加勢するという話になる。そんなに忙しいなら、場合によっては仕事を減らそうという話になるかもしれない。）
- ・ 上記のことは地域の声で、そうではないという話ではなくて、そういう話を聞いた。そういう意見を踏まえて、汲みとりをしないといけない。
- ・ ある面でホッとするところがある。学力ばかりでなく、もっと根本にあるのを地域が望んである。
- ・ ふるさとを知ろうということがあった。子ども達と一緒に吉野ヶ里体験に行った。その時、子ども達は一所懸命に取り組んでいた。鹿島に何があるだろうかと聞いたら、子ども達は何があるか分からんと言った。
- ・ ICT も今のも体験というか非日常というか、教科書で得られないものを体験するという部分だから、その中で子ども達に浸透していく。ICT は用途次第。子どもが喜んだというだけでなく、学力向上を主として狙っているわけだから、上がったという解を出さない。
- ・ これは県教委で作られたグラフだと思うけれども、何年か後にこういうものを鹿島でも ICT 利用による学力向上ということで、分析し、グラフ化できるような数字が出てくれば、市民にも分かりやすい説明ができるのではないかと思う。我々はこの機会があるから分かる訳だけれど、今の時点で、市民の中でこういう道具を見たことがあるかと言えばごく一部だと思う。しばらくすれば、電子黒板が学校にあると、今の黒板があるようにあるという感覚の時代が来るだろうけれども。
- ・ 今から先は授業参観の時の保護者。

- ・最初に説明のあった内容を市民に説明すれば、良い道具ということが分かってもらって、そうならばどういう結果が出るだろうかというような興味も、市民からも出てくるかも。
- ・ソフトが一番問題かなと思う。その予算化は？それがないと中途半端に終わる可能性があるので、充実させないといけないと思う。そして、先生達がこなす量と質。心配するのがこの練習が学校に居る時間でしないといけないのか、家に持って帰っても自分のパソコンでできるのか。
- ・電子黒板そのものは使わないとできない。
- ・子ども達と触れ合ってもらいたいという地域の希望と下手すれば
- ・最初のうちは一生懸命さわって慣れるという時間はとる。そういう時間が放課後の時間であったりすると思う。

(2) ふるさと教育について

(小川指導主事説明 ふるさと教育について、学校指導要領、鹿島市学校教育方針での位置付け、平成 26 年度の各小中学校での独自取組、市及び教育委員会での平成 24 年度伊能忠敬来鹿 200 年、平成 26 年度市制 60 周年記念発掘鹿島百物語、小学校社会科の副読本わたしたちの鹿島市の刷新、補助金などの説明)

- ・知事もよく言うが、外の人と話をしたときに「何もなか」というのが鹿島、佐賀では最初に出てくる。「何もなか」をやめようと知事が提唱している。酒、道の駅、ラムサールなどで、このところ色々な意味で鹿島は全国区になりつつある。大人を含めて、ふるさと教育が大事だということがどんどん認識として入れればいい。
- ・「何もなか」ということを大人が意識を改めるとともに、子ども達にも鹿島はこんなに良い所があるじゃないかと教えていくことが全体的なふるさと教育になるという感じがする。子どもだけに言うのではなくて、大人も意識を改めないといけないのではないだろうかと思う。
- ・今年の 3 月に知事が地域の人と話をして参加自由の会合があって、高校生がテクニック、材料を使って学力を向上させてもらうのはありがたいけれども、ふるさとのことをキチッと教えるような体制というようなことを言った。何故かと言うと今から彼らは就職や進学で東京や大阪に行って、その時にあなたのふるさとどこですか、佐賀県鹿島市、どういうところですか、いや大して特徴的には、これじゃ友達ができないというようなことがあって是非お願いしますと言ったのが記憶にある。地方創生がテーマになっているが、子育てをする母親の希望は、1 番目が便利なマチ、2 番目が安全安心のマチ、そして 3 番目が子ども達が東京、大阪とかに行って自分のふ

るさとを自慢できるように育ててくれるマチ。ふるさと教育が必要であると思っ
ている人は意外と多い。システム化はされていない、皆イメージが違って、子ども達
が何か作り上げるのがふるさと教育なのか、郷土芸能に参加して伝統を絶やさなく
受け継いでいくことなのかとか色々なものがある。区長達との話の中で全部ではな
いが、昔はもっと先生は地域の行事に出てこられていた、最近はいらっしゃらない
とあった。

- ・浜では色々なことに学校の先生達も出てきてもらっている。例えば郷土芸能の面浮立の面をかぶって踊るとか、それぞれの地域、それぞれの個人のレベルによって違う。
- ・学校はおそらく先生の広域異動があっている。遠くにいらっしゃるのですぐに帰るとか。
- ・通勤距離でそれだけの時間がとられる。佐賀市に行く時に往復 2 時間かかるのと一緒で
- ・鹿島市はこんなに良いところがあって誇れるよう、何かを共通的に学習するという場が必要かも。
- ・そういう時間は必要かも。パーツパーツはあるけれども
- ・初任者研修の中で、新しく来られた新米の先生方は他所から来た人がほとんどなので、鹿島をとにかく知ってください、学校地域をしっかりと知ってくださいということをお願いしている。自分の足で調べてくださいということをしている。そういうことに力を入れていかないと強く思う。先生が地元にいればいいが、自給自足も厳しい状況で、逆に長く地元いたら、その人が伸びず、色んなところで色んな経験をしないといけない。そういうことでどうしても人事異動というのがあるが、あまりにも広域な異動はどうだろうかと色んな意見がある。勉強して戻ってこられた方は伸びて戻ってこられるという事実はある。
- ・他所から来られることで、お互いつらくないか、慣れた頃にまた変わってしまう。
- ・受け入れる地域の何となく他所から来られたという見方になってしまうというのがある。
- ・特に管理職の校長先生、教頭先生達が広域の対象となる網の目が広がった。さっきの地区の行事に先生達が参加しないというのも通勤時間に時間がとられるので参加できないというのもあるし、逆に自分の地域と交流する時間も少なくなり、両方にかかってくるという感じになってくる。
- ・子ども達との精神的な距離感も当然遠くなる。
- ・確かに新しい土地で仕事をしてもらおうというのにも必要だろうけど。
- ・勤務時間、勤務日でないとき、土日、放課後、夜朝、特に地域に出ることが多い。

あるところで朝 6 時から寒稽古があって、管理職で遠くから来られていて、何か用事のあったのだろうかとか地域の方が言われていた。それがやっぱり地域にもっと入ってもらいたいということだと思う。用事があったというよりも朝 6 時に神埼とか鳥栖あたりから来るというのはちょっと難しいのではと思った。

- それと並行して忙しくなった、余裕がなくなったという話がある。
- 学校も先生達もゆとりがないと思うけど、一般の方達もゆとりがないと思う。
- 余裕がなくなったのと子ども達の学習に対する構えみたいなもの、それは家庭とか地域の構えでもあるかもしれないが、以前だったら 45 人学級であっても学校に行き、先生の話の静かに聞くのが当たり前で、それを怒ったら親も先生の話の聞かんとかて 2 度も 3 度も怒られるという時代だったのと、今ちょっと変わってきたと思う、子育ての面でも。だから 45 人ではとてもじゃない、40 人でもちょっと大変、少なくとも小学校の低学年のときは少人数でという声が出るんじゃないのかなと思う。
- クラスの人数の適正規模という考え方はあるのですか？
- 10 人から 20 人ぐらいはと思うが、少ないから何もできないかと言ったらそうじゃないと思うし、僻地みたいなところの学校は無理してでも残せるなら残すべきだと思う。学校がなくなるとどうも村もなくなる可能性があるんじゃないかというのも思う。教育子育ては負担ではなくて、投資だと思う。
- 鹿島の場合は分校スタイルで今のところ音成と浅浦がある。学校が地域コミュニティの中心というのは色々なことでそういう位置付けられている部分もある。子どもの数は全体的には減る一方だから、子どもの数が減ってきた場合、どうするかという問題は別問題だが、先行き考えておかないといけない。
- ふるさと教育には 2 つ、周辺のこととするのか、もう一つ広い意味で鹿島をふるさと教育の対象にするのかで話は変わってくると思う。
- 小学校の低学年に鹿島市全体のことを教えてもなかなか実感として学べないところもあるし、高学年から中学生ぐらいなら鹿島全体のことを理解できるので、そこから辺で区別をしていけばいいのでは。
- 1、2 年は生活科があってまち探検とか、あと上になってくれば夏休み、総合的な学習の時間の方が多い。校長にもふるさと教育について力を入れましようと言っている。地域の人を活用していただいて、また地域の方から言っていただくと非常に本当にありがたい。
- 明倫小学校にコミュニティースクールが導入され、今年から鹿島小学校も導入が検討されているけど、そういう形での学校運営になれば、ふるさと教育とミックスしたような形で上手く回っていくのではという見方をしている。
- 先生がふるさと教育をしようと思ったら、まず地域の行事に参加することから始ま

と思う。

- ・ふるさと教育ということでは行事に参加、まず知識を持ってもらわないといけない。
- ・共通的に鹿島市はこれとこれは是非先生も生徒も学んでほしいということを決めることもおかしいのかもしれないけど、それは佐賀県全体を含めたふるさとでもいいだろうけど
- ・この副読本はそういう役割にも上手く使える。
- ・「何もなか」をなくしていくためには、いくらかダイヤモンドの原石みたいなものを見つけ出し、大人も子ども達もこれが鹿島というのをアピールするようなことをしていけないといけない。
- ・観光担当も気にしているけど、色々な意見がある中で何かにまとめるのは大変。
- ・そういうこと（クロツラヘラサギが飛来する）を子ども達にも知ってもらわないといけない、北鹿島だけでなく全ての学校がクロツラを見にいこうとしないといけない。ガタリンピックで各学校の6年生のチームが出場するという事は良いこと。県内学習をするときに吉野ヶ里に行っていない、佐賀城博物館にも行っていない、意外と通り過ぎて福岡に行ったりするから、地元を見直すことが必要と校長会でも話をしている。
- ・浜にも3つぐらい城があるが、遺構が何も残っていない。学校の勉強でも一緒に、まずビジュアルから入る。鹿島も何かビジュアル的なものをもう少し・・・まず何でも興味を持つか持たないかは見るのから。
- ・そういうことかもしれない、ふるさと教育というのは。ここにあったとか何でも見せてやらないといけない。
- ・ふるさと教育の一環として地域の行事に子ども達を参加させてどういうことがあっているのかというのを見せることは必要なことと思う。
- ・橘園とかももうちょっと整備できないのか、整備して観光に回れるようにできれば、あと他所で古墳の看板とか見るので、そういう看板も必要じゃないかと思う。見えるようなふるさとを作るというのも必要かなと思う。
- ・ふるさと教育に関し、地域それぞれにそういうことに詳しい人がいらっしゃる。そういう人たちの力を上手く学校の中に取り入れるようにすれば十分できるのではという感じはする。先生達にも基礎的なことは知ってもらわないといけないけれども。
- ・百物語がきっかけになって、学校の方で調べ学習を企画することは本当に良いこと。それを単発にしないというのが大事。
- ・例えば毎年は難しいので、2、3年に1回にやるとか、そういうふうになれば学校でも1年間で教えることができなくても2、3年かけて、それに向けての計画も立てられる。

5 その他

橋村総務部長 長時間にわたり御議論ありがとうございました。次回も教育委員会の日程に合わせ、1日10時からということでもよろしくお願いいたしますと思います。長時間にわたりありがとうございました。次回のテーマが学校以外での過ごし方、放課後対策ということでもよろしくお願いいたします。

- ・ 次回開催日 10月 1日（木） 10時00分から
テーマ「学校以外での過ごし方（社会教育、放課後対策など）」